

第一章 章番号1 章内番号1～5 通し番号1～5

本文訳

「言うことのできる道は久しく続く道でない。名づける」とができる名は久しく続く名でない。名のない所から天地が始まる。天地が万物の母になる。常に、無は微の極である妙を見ようとする。常に、有はその帰する所を見ようとする。無と有は同じものから出て来るが、名称は異なっている。その同じものを玄と言ふ。同じものは玄と名づけているが、やんに玄であり、多くの妙（微の極）の門である。

通し番号1 章内番号1 識別番号1・1

本文

1道可道、2非常道、3名可名、4非常名、

1 dào kě dào, 2 fēi cháng dào, 3 míng kě míng, 4 fēi

cháng míng.

道の道うべきは、常の道に非ず、名の名づくべきは、常の名に非ず、

(1)道う…言ふ 現代日本語で「報道」と使う。報道の「道」は「言ふ」の意味で使っている。「みち」の意味でない。現代でも道を「言ふ」の意味に使う用法は残っているのである。

道、言也（道、言なり）（孟子朱注35・1） 仲尼之徒、無道桓文之事者（仲

尼の徒、桓文の事を道う者無し）（孟子35・2）

(2)道の道うべきは、常の道に非ず…これは「道の道とすべきは常の道に非ず」と読むのが定説である。老子の説く道は道とすることができる。」「道の道とすべきは常の道に非ず」と言うなら、老子の道も常の道でないことになってしまつ。太田晴軒は「道」は「従う」「由る」だとする。しかし老子の道は無為自然に従い由つている。「従い由ることのできるものは常の道でない」と言うなら、老子の道も常の道でないことになつてしまつ。一方道は言うことができない」というのは老子の言う道の特徴であり、「老子」の他の箇所でも述べられている。

行不言之教（不言の教えを行う）（老子8・1） 有物混成、先天天地生、寂寥兮、獨立不改、周行而不殆、可以為天下母、吾不知其名、字之曰道、強為之名、曰大（物有りて混成たり、天地に先だちて生ず、寂たり寥たり、ひとり立ちて改わらず、周行して殆うからず、以て天下の母と為るべし、吾其名を知らず、之に字して道と曰う、強いて之が名を為して、大と曰う）（老子25・1） 不言之教、無為之益、天下希及之（不言の教え、無為の益は、天下之に及ぶこと希なり）（老子222・1） 不言而善應（言わずして善く応ず）（老子39・8・1） またこの章の終わりで、始と母、名無しと名有る、無と有が出てくるものを玄と名づけている、この玄は道とほぼ同じ意味である。王弼は「玄者、冥也、默然無有也、始母之所出也、不可得而名、故不可言、同名曰玄、而言謂之玄者、取於不可得而謂之然也（玄は、冥なり、默然として有ること無きなり、始母の出る所なり、得て名づくべからず、故に言うべからず、同じく名づけて玄と曰う、之を玄と謂うと言うは、得て之を然りと謂うべからざるに取るなり）（老子王弼注5・9）と注釈しており、玄、つまり道は言うことができないし名づけることができないと言つてゐる。だから言うことのできるものは道でないのである。王弼も「道」を「道う」と讀んでゐる。

(3) 常・久しい　常者久也（常は久なり）（范應元）　知和曰常（和を知るを常と曰う）（老子285・2）

王弼注

1可道之道、2可名之名、3指事造形、4非其常也、5故不可道、6不可名也、

1 kě dào zhī dào, 2 kě míng zhī míng, 3 zhǐ shì zào xíng, 4 fēi qí cháng yě, 5 gù bù kě dào, 6 bù kě míng

yě,

道うべきの道、名づくべきの名は、事を指し形を造り、其常に非ざるなり、故に道うべからず、名づくべからざるなり、

王弼注記

「言う」とのできる道、名づける」とができる名は、事を指し形を作り久しく続くものでない。だから言うことができないし、名づけることができない。

私たちの社会は言葉を重んじる社会である。テレビ、新聞、書物、YouTube、SNS (Social Networking Service) など人々は多くの言葉を発している。言葉で真理を言う」とがやるのだと思っているから人々は言葉を発信しているのである。しかし言葉は人間が生まれた時から持っているものでない。生後周囲の人々が話しているから習得したものである。日本語

が話されている環境で育てば日本語を話すようになる。英語が話されている環境で育てば英語を話すようになる。言葉は自分が育った環境によつて得たものである。育つ環境により話す言葉が違つてくる。人間に本来備わるものが環境により変わるとは考えにくい。だから言葉は人間に本質的なものでない。本質的なものでない言葉で本質的な道を表すことができるとは考えにくく。道は言葉を超えたものである。だから言葉で言はうとする道は真の道でないことになる。

本文

1無名天地之始、2有名萬物之母、

1 wú míng tiān dì zhī shǐ, 2 yǒu míng wàn wù zhī mǔ,

名無さは天地の始めなり、⁽¹⁾有名なは万物の母なり、

(1)有名る・天地　有名者、天地是也（有名るは、天地是れなり）（太

田晴軒）

(2)名無さは天地の始めなり、有名るは万物の母なり：これは老子201・1の「天下の万物は有に生ず、有は無に生ず」の言い換えである。

王弼注

1凡有皆始於無、2故未形、3無名之時則為萬物之始、4及其

有形、5有名之時、6則長之育之、7亭之毒之、8為其母也、9言道以無形無名始成萬物、10以始以成而不知其所以、11玄之又玄也、

1 fán yǒu jiē shǐ yú wú, 2 gù wèi xíng, 3 wú míng zhī shí zé wéi wàn wù zhī shí, 4 jí qí yǒu xíng, 5 yǒu míng zhī shí, 6 zé zhǎng zhī yù zhī, 7 tíng zhī dù zhī, 8 wéi qí mǔ yē, 9 yán dào yǐ wú xíng wú míng shǐ chéng wàn wù, 10 yǐ shǐ yǐ chéng ér bù zhī qí suǒ yǐ, 11 xuán zhī yóu xuán yē,

凡そ有は皆無に始まる、故に未だ形せざして名無^シの時は則ち万物の始めと為る、其形有りて名有るの時に及べば、則ち之を長⁽¹⁾じ之を育て、之を亭^{スル}え、之を毒^{スル}くし、其母と為るなり、言えらへ、道は無形無名を以て始まり万物を成し、以て始まり以て成り其所以を知らず、玄は又に玄なり、

(1)之^を長^シ之^を育^テ、之^を亭^{スル}之^を毒^{スル}す：老子257・3の引用 語
 积はそこを参照
 (2)又に…^{スル}るに 又、猶更也（又、猶更の「」ときなり） 東山、
 蓋魯城東之高山、而太山則又高矣（東山、蓋し魯の城東の高山
 なり、太山は則ち又に高し）（孟子朱注861・2）

じのようにして成るのかはわからず、玄がさらに玄であるといつてゐる。

いりは人間の認識で見るものに対する興味深い指摘である。

物を始めるのは無であり、無は名づけることができない。人間の言葉で表現できるものではなく、人間が認識できるものでない。始まつたものを増やし、育て、整え、厚くするのは有のすることである。有は名づけることのできるものだから、人間の言葉で表現できるし、人間が認識する」といわれる。「ひらめき」と言われるものは、無からふと心に湧くものである。なぜそういうことが湧いたのか、その機序はわからない。しかしのふとした「ひらめき」が大きな力を持つのである。人間の学問はこの「ひらめき」で発達して來た。AI (Artificial Intelligence) が発達し、驚くほど正確な回答をするようになつた。AIはAIが学習したことから回答している。AIは言葉で表現されたもの、つまり有から学習している。AIに無からふと生じる「ひらめき」はない。無から生じる「ひらめき」がある所が、人間がAIより優れる所だろう。

王弼注訳

有はみな無に始まる。だから形がなく名がない時が万物の始めとなる。形ができる名があるようになると、それを増やし、それを育て、それを整え、それを厚くして、その母となる。道は形がなく名がない所から始まり万物を成すが、どのようにして始まり、

通し番号3 章内番号3 識別番号1・3

本文

1 故常無欲以觀其妙、

1 gù cháng wú yù yǐ guān qí miào,
故に常に無は以て其妙を觀るゝとを欲す、

(1) 故に常に無は以て其妙を觀ることを欲す、常に有は以て其妙を觀る、常に有

欲にして以て其妙を觀るゝとを欲す、常に有は以て其妙を觀る、常に有
無きは天地の始めなり、名有るは万物の母なり」に続く文である。無欲、有欲のこと
と有ることとを主題としているのである。無欲、有欲のこと
でない。このも無と有のこととを考えなければ、つながりが悪
くなる。またいふして「徴を觀る」のは有欲でなければならな
いのかと思う。ものを見るのは、心を無欲、平靜にして見な
ればその帰趣はよくわからぬはずである。「いつも欲がある立
場に立てば万物が活動するやまやまな結果が見れるだけ」との
説があるが、多欲であれば、欲で目が濁り、やまやまな結果も
よく見えない。

王弼注

1 妙者、2 微之極也、3 萬物始於微而後成、4 始於無而後生、
5 故常無欲空虛、6 可以觀其始物之妙、1 miào zhě, 2 wēi zhī jí yě, 3 wàn wù shǐ yú wéi ér
hòu chéng, 4 shǐ yú wú ér hòu shēng, 5 gù cháng wú
yù kòng xū, 6 kě yǐ guān qí shǐ wù zhī miào,妙は、微の極なり、万物は微に始まりて後成る、無に始まりて
後生ず、故に常に無は空虚にして以て其物を始めるの妙を觀るべきを欲す、

王弼注

本文

1 常有欲以觀其徴、

1 cháng yǒu yù yǐ guān qí jiào,
常に有は以て其徴を觀るゝとを欲す、

(1) 徵..帰終（王弼注）

王弼注

1 徵、2 歸終也、3 凡有之為利、4 必以無為用、5 欲之所本、
6 適道而後濟、7 故常有欲可以觀其終物之徴也、1 jiào, 2 guī zhōng yě, 3 fán yǒu zhī wéi lì, 4 bì yǐ wú
wéi yòng, 5 yù zhī suǒ běn, 6 shì dào ér hòu jǐ, 7 gù
cháng yǒu yù kě yǐ guān qí zhōng wù zhī jiào yě,
徴、帰終なり、凡そ有の利と為るは、必ず無以て用と為し、本⁽²⁾

づく所に之くを欲すればなり、道に適いて後に済る、故に常に有は以て其物を終えるの徹を觀るべきを欲するなり、

(1) 之く・行く
之、往也（之、往なり）

有託其妻子於其友、而之楚遊者（其妻子を其友に託して、楚に之き遊ぶ者有り）（孟子

92·3）

(2) 本づく所に之くを欲すればなり、道に適いて後に済る…定説ではこ

こは「欲の本づく所は、道に適いて後に済る」と読む。欲の本づく所とは富貴のことだろうから、「道にかなうと富貴が得られる」となってしまい、富貴を得るために道にかなうようにしていふことになる。これは老子の主張と矛盾する。欲入所臥（臥する所に入ることを欲す）（論衡別通）という用法があり、これは入を之にし、臥を本にした形である。

(3) 済る…なる 濟、成也（濟、成なり） 五霸則假借仁義之名、以求濟其貪欲之私耳（五霸は則ち仁義の名を仮借して、以て其貪欲の私を済すを求めるのみ）（孟子朱注875·5）

王弼注 訳

徹は帰し終わる所である。有が利になるのは、みな必ず無で有を用い、基づく所に行こうとするからである。無の道にかなつて初めて成すことができる。だから有は常に物が終わる徹を見ることができるこを望む。

凡そ有の利と為るは、必ず無以て用と為す
これは非常に感銘深い言葉である。私たちは有からものを為しがちである。しかし心や自然の無を経由して為さなければな

らない。こういうデータがあるからと、それを実行する。これは有だけを見て動いているのである。データがあつても無の心は有だけを見つけて動いているのである。データがあつても無の心でよく考へる。無の心で判断して理にあたると判断して始めて実行する。データという有があつても、心という無で用いることにより、有は始めて利をもたらすのである。データという有を心の無で考へることなく用いれば必ず害をもたらす。

テレビはなぜ人に益よりも害をもたらすことが多いのかもこれで説明できる。テレビが表示する動画は有である。たいていの人はその動画の有を心の無でよく考へることなく、その動画の有に影響されて行動する。心の無を用いていないから、テレビに動かされたその行動は理に合わず人に害をもたらす。安倍晋三暗殺事件では、山上被告のいた位置からでは、どのように撃つても安倍晋三氏が受けたような銃創はできない。それだけで山上被告が犯人でないことは明らかである。心の無を用いればテレビの言つてることに理がないのはわかるのである。しかし大半の人はテレビの動画の有のみを見て、心の無を用いていない。それでほとんどの人は山上被告が安倍晋三氏を殺害したと思つてゐる。

通じ難い語 説明 認別難い語 1 · 5

本文

1此兩者同出而異名、2回謂之玄、3玄又玄
4眾妙之門、

1 cǐ liǎng zhě tóng chū ér yì míng, 2 tóng wéi zhī xuán, 3 xuán zhī yòu xuán, 4 zhòng miào zhī mén,

(1)此兩者は回のやうに出で名を異にす、回のやうなやうを玄と謂へ、玄は又に玄、衆妙の門なり、

(2)此兩者：王弼は「始」と「母」ふたつ。「名無」は天地の始めなり、名有るは万物の母なり」だから、「名無し」と「名有る」のいふ

である。「名無し」は「無」にあたり、「名有る」は「有」にあたるから、「無」と「有」のいふものある。

(3)衆妙：多くの妙 衆は「多い」の意味がある。衆、多也（衆、多くなり）、殺人之眾、以哀悲泣之（人を殺す）ことが衆ければ、悲哀以て之に泣く 眇：衆の異字体）（老子169・21）

22 zhòng miào jiē cóng tóng ér chū, 23 gù yuē zhòng miào zhī mén yě,

22 zhòng miào jiē cóng tóng ér chū, 23 gù yuē zhòng miào zhī mén yě,

両は、始の母なり、回のやうに出でる、同じく玄に出るなり、名を異にするは、施す所同じくすぐからむなり、首に在れば則ち之を始と謂ひ、終に在れば則ち之を母と謂ひ、玄は、冥なり、黙然として有るいと無きなり、始母の出る所なり、得て名づくるべからず、故に言ひぐからず、同じく名づけて玄と曰ひ、之を玄と謂ひ、故に言ひぐからず、得て之を然りと謂ひぐからざるに取るなり、之を然りと謂ひば則ち以て⁽³⁾の玄を定むべからず、則ち是れ名づくれば則ち之を失うこと遠し、故に曰く、玄は又に玄なり、衆妙は皆同じ⁽⁴⁾も従り出ず、故に衆妙の門と曰ひなり、

1兩者、2始與母也、3同出者、4同出於玄也、5異名、6所施不可同也、7在首則謂之始、8在終則謂之母、9玄者、10冥也、11默然無有也、12始母之所出也、13不可得而名、14故不可言、15同名曰玄、16而言謂之玄者、17取於不可得而謂之然也、18謂之然則不可以定乎一玄而已、19則是名則失之遠矣、20故曰、21玄之又

(1)首：始め 首、始也（首、始なり）（釋名 釋形體） 夫禮者、忠信之薄、而亂之首（夫れ礼は、忠信の薄きにして、乱の首なり）（老子194・15）

王弼注

1兩者、2始與母也、3同出者、4同出於玄也、5異名、6所施不可同也、7在首則謂之始、8在終則謂之母、9玄者、10冥也、11默然無有也、12始母之所出也、13不可得而名、14故不可言、15

同名曰玄、16而言謂之玄者、17取於不可得而謂之然也、18謂之然則不可以定乎一玄而已、19則是名則失之遠矣、20故曰、21玄之又

玄也、22眾妙皆從回而出、23故曰眾妙之門也、

1 liǎng zhě, 2 shǐ yǔ mǔ yě, 3 tóng chū zhě, 4 tóng

chū yú xuán yě, 5 yì míng, 6 suǒ shī bù kě tóng yě,

7 zài shǒu zé wèi zhī shí, 8 zài zhōng zé wèi zhī mǔ, 9 xuán zhě, 10 míng yě, 11 mò rán wú yǒu yě, 12 shǐ

mǔ zhī suǒ chū yě, 13 bù kě dé ér míng, 14 gù bù kě

yán, 15 tóng míng yuē xuán, 16 ér yán wèi zhī xuán

zhě, 17 qū yú bù kě dé ér wèi zhī rán yě, 18 wèi zhī

rán zé bù kě yǐ dìng hū yī xuán ér yǐ, 19 zé shì míng

zé shī zhī yuǎn yǐ, 20 gù yuē, 21 xuán zhī yòu xuán yě,

22 zhòng miào jiē cóng tóng ér chū, 23 gù yuē zhòng

miào zhī mén yě,

(2) 始母の出る所なり。これを「始は母の出る所なり」と読む本がある。

始と母は玄から出ると老子は言っている。始は母が出る所とは書いてない。

(3) 一・道・一の氣 天得一以清（天は一を得て以て清なり）（老子 196・1） ここは「一」を数字の「一」と取るのが定説である。しかし「一つの玄」と読むと玄が複数あることになる。玄は道のことを言っており、道が複数あるはずはないのである。

「一玄」は「一の玄」と読む。

(4) 徒よりから 徒、自也（徒、自なり） 乃知此心不從外得（乃ち此の心は外徒より得ざるを知る）（孟子朱注42・15）

王弼注訳

両は始と母である。同じく出るは、同じく玄から出るである。名を異にするは、施す先を同じにすることができないからである。施す先が首にあると始と言う。施す先が終わりにあると母と言う。玄は冥であり、黙々として有ることがなく、始と母が出て来る所である。名づけることができない。それで言うことができない。始と母が出て来る所は同じく玄と名づける。玄と言うのは、このようであると言ふことができない所から名づけている。このようであると言ふならば、一の玄を定めることができない。名づけると実体を失い実体から遠ざかることになる。それで玄はさらに玄であると言う。多くの妙はみな同じものから出て来る。だから衆妙の門と言う。

第二章 章番号2 章内番号1～5 通し番号6～10

本文訳

天下の人が皆よいこととすると悪いものがある。皆が善とすると不善がある。有があるのは無があるからである。無があるのも有があるからである。難があるのは易があるからである。易があるのも難があるからである。長があるのは短があるからである。短があるのも長があるからである。高があるのは低があるからである。低があるのも高があるからである。こちらの音が和すのはむこうの音があるからである。むこうの音が和すのもこちらの音があるからである。前があるのは後があるからである。後があるのも前があるからである。だから聖人は無為のことについている。不言の教えを行ふと、万物は自然に起る。道は物を生じるが、生じた物を有することがない。道は為すが、為すことに頼らない。功を成しても功におらない。功におらないようにするから、功が自分からなくなることがない。

本文

通し番号6 章内番号1 識別番号2・1

1 天下皆知美之為美、2 斯惡已、3 皆知善之為善、
4 斯不善已、5 故有無相生、6 難易相成、7 長短
相較、8 高下相傾、9 音聲相和、10 前後相隨、